

秋田県知事

鈴木健太様

要望書

秋田港クルーズ列車の
運行継続へ向けた再検討
について

2025年6月26日

秋田商工会議所 会頭 辻良之

秋田港振興会 会長 辻良之

秋田港クルーズ列車の運行継続へ向けた 再検討について

日頃より県政の発展にご尽力いただき、心より感謝申し上げます。

さて、秋田県におかれましては、多年にわたりクルーズ船の積極的な誘致に取り組んでこられ、2025年には秋田港において過去最多の35隻の寄港が予定されるなど、そのご尽力と成果に深く敬意を表するところです。

とりわけ、クルーズ船の積極的な誘致のため懸案であった二次交通対策として、全国的にも稀有なクルーズ列車を本港地区賑わい拠点において導入し、この運行を前提にした当該工区の再編整備が進められていることは、本県の観光振興、ひいては地域経済活性化に資する極めて重要な施策と認識しております。

しかしながら、去る2月の県議会において、『クルーズ列車の2025年度末での廃止』が明らかにされたことは、我々にとって大きな懸念材料となっております。

廃止理由として示された運行継続に必要な初期投資約8億円、年間保守点検費用7千万円の捻出困難というご説明は理解しております。しかし、一方でこれまで積み上げてきたクルーズ船招聘事業やポートセールス、ソフト・ハード両面での受入環境整備の取組みにより秋田港への寄港数は年々増加している中で、1万人を超えるクルーズ列車の利用実績を鑑みれば、この廃止は、クルーズ船寄港による経済効果を

最大限に引き出す本県のクルーズ誘致戦略やインバウンド対策に悪影響を及ぼすものと大変危惧しているところです。

加えて秋田県においては、現在、クルーズ船の二次交通検討委員会を設置し、クルーズ列車廃止後の議論を進めてはおりますが、タクシー、バスともにドライバー不足の中、具体的な対策に目途が立っていない状況にあるのも事実です。

JR貨物秋田港線は、一旦廃止すれば、二度と軌道の復活は望めないことから、クルーズ列車としてのあらゆる継続の可能性を再検討した上で、慎重な判断が必要と認識しております。

つきましては、本要望書の趣旨をご理解いただき、秋田港クルーズ列車の2026年4月以降の運行継続に向けた前向きな再検討と、早急な具体策の協議再開を強く要望いたします。

【要望事項】

1. 国に対して、秋田港クルーズ列車存続に向けた支援策を要望していただきたい

JR貨物からの土地や鉄道施設の取得、設備更新等に要する費用について、クルーズ振興を進める国からの支援策を早急に要望していただきたい。

2. 秋田港クルーズ列車の運行継続に向けた再検討を行っていただきたい

上記1. を踏まえ、関係者とクルーズ列車の運行継続に向けた再検討をお願いしたい。